



コスモスだより

乳腺外科

【ニューストピックス】

遺伝性乳がんと 遺伝子検査

【お知らせ】

新年のご挨拶 総長 片山 和宏 / 院長 長谷川 順一
第 84 回 市民公開講座のお知らせ

病院機能評価【3rdG : Ver2.0】の認定を受けました
イベントレポート 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 泉州かいづか」
水間鉄道のオリジナルヘッドマークに思いを込めて

(医療従事者向け情報)

市立貝塚病院「登録医制度」導入のご案内

病院の理念 基本方針

地域住民を支える良質な医療の提供

1. 地域の中核病院として、住民の方々の健康を守ります。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実を目指します。
3. 急性期医療に加え、緩和ケア、在宅支援など、地域の医療機関との連携を密にし、地域の中で信頼される病院を目指します。
4. 住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしく暮らし続けることができる「地域包括ケア」の推進に努めます。
5. すべての職種が協働して治療に取り組むチーム医療を実践します。
6. 合理的で健全な経営を推進し、職員一人ひとりが働き甲斐のある環境を整備します。

発行：市立貝塚病院 広報委員会

乳腺外科 遺伝性乳がん と 遺伝子検査

遺伝子情報を調べ、治療法を選択したり、新しい治療薬を開発する「ゲノム医療」が急速に広がってきました。

乳腺外科の分野でも遺伝子検査の保険診療適用拡大が相次ぎ、遺伝子変異に基づいた早期発見プログラムや薬物選択・リスク低減手術などが、日常診療として始まっています。当院では、2022年9月から「遺伝カウンセリング外来」を開始し、遺伝子検査のための体制も整っています。

■ HBOC (遺伝性乳がん卵巣がん症候群)

「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」とは

乳がんの5～10%は、親から受け継いだ特定の遺伝子の変異(異常)によって起こる「遺伝性がん」です。「遺伝性がん」の約半数は、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子の病的変異が原因と言われています。

「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)」は、BRCA1 または BRCA2 遺伝子の病的変異を遺伝により受け継ぎ、がんになりやすい体質であることを意味します。

HBOC で上がる「乳がん」発症リスク

- 若い年齢(45歳以前)で発症する
- トリプルネガティブ乳がんを発症する
がん細胞に治療の標的となる三つの受容体が欠如しているため、治療が難しいタイプの乳がんです。再発率が高く再発後の進行も早い傾向があります。
- 対側の乳房にも発症する(乳房の両方に発生)
- 同側に新たな乳がんが発症する
- 男性乳がんを発症する

悪性腫瘍	一般集団	「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)」	
		BRCA1 変異保持者	BRCA2 変異保持者
初発乳がん	12%	55～72% (70歳までに)	45～69%
対側乳がん	2% (5年以内に)	20～30% (10年以内に)	40～50% (20年以内に)
卵巣がん	1～2%	39～44%	11～17%
男性乳がん	0.1%	1～2%	6～8%
前立腺がん	6% (69歳までに)	21% (75歳までに) 29% (85歳までに)	25% (75歳までに) 60% (85歳までに)
膵がん	0.5%	1～3%	3～5%

GeneReviews® <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/> より引用

■ HBOC と診断された場合の治療と対応

がんを発症している方(乳がん・卵管・卵巣・腹膜がん)

リスク低減手術

- がんが発生していない乳房・卵巣・卵管を切除
- リスク低減乳房切除 ●乳房再建術(乳房切除後)
 - リスク低減卵管卵巣切除

※当院では、乳がんを発症されている方の「リスク低減卵管卵巣切除」を保険適用で受けていただくことが可能です。「リスク低減乳房切除(及びその後の乳房再建術)」は、現在行っておりません。手術可能な施設への紹介となります。

切除を希望しない方

- MRI画像診断や腫瘍マーカー検査等によるフォロー
⇒できるだけ早期にがんを発見できるよう、高頻度に検査を実施します。

発症していない方

高頻度の健診

- 乳房・卵巣・卵管の検診を推奨
⇒専用の検診メニューもご用意しています。
- 男性には前立腺がんの検診を推奨
⇒当院「健診センター」人間ドックのオプションメニューで受診できます。

■ BRCA1/BRCA2 遺伝子検査

■ HBOC か否かを知るための遺伝子検査

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)の診断のための「BRCA1/BRCA2 遺伝子検査」は血液検査です。当院で採血して専門機関で検査を行い、結果は3～4週間後に届きます。

【検査費用】

- 発症している方：病状・年齢・家族歴などにより、保険適用可否は異なります。(保険適用 3割負担約6万円)
- 未発症の方：自費(約22万円)

保険適用はこちらで確認



新たな
がん発症の
リスクを知る

治療法の
選択指標
とする

遺伝子検査の対象

- 現在がんを罹患している方
- がんの手術を過去に受けられた方
例) 乳房の片側を切除した
卵巣がんの手術をした
- 未発症だが検査したい方

■ がん遺伝子検査の受診を考えている方のための、充実した相談窓口

「遺伝子検査」を受けるという決断をするには、保険適用や費用面だけでなく、遺伝という家族にも影響する診断のため、大きな不安と向き合わなければなりません。こうした患者さんの不安に寄り添うのが「遺伝カウンセリング」です。当院でも、2022年9月から「遺伝カウンセリング外来」を開始しました。臨床遺伝専門医が疾患や検査について詳しくご説明しご相談をさせていただきます。

更に当院では、「がん無料相談」や「乳がん看護外来」も行っています。「気軽に相談したい」という方は、是非ご利用ください。

||||||| 遺伝カウンセリング外来 (要予約) |||||

- ・日程/水曜日 2人(14:00～1名、15:00～1名)
- ・担当/乳腺外科医 玉木 康博
(日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医)
- ・対象/HBOC が疑われるもしくは既に BRCA1・2 遺伝子検査を受けて病的変異が見つかった血縁者がいる方
- ・費用/1回1万円(自費) ※保険適用となる場合もあります。
- ・予約/地域医療連携室 072-422-5865



||||||| がん無料相談 (要予約) |||||

がんに関するすべてのお悩み、心配事などの相談を受けています。

- ・日程/月～金曜日 1人30分
- ・担当/看護師、ソーシャルワーカーなど
- ・対象/どなたでも
- ・費用/無料
- ・予約/1階 総合受付
地域医療連携室 072-422-5865

||||||| 乳がん看護外来 (要予約) |||||

- ・日程/月・火・木・金曜日 1人30分
- ・担当/乳がん看護認定看護師
- ・対象/当院かかりつけの患者さんとご家族
- ・費用/保険の種類により異なります
- ・予約/乳腺外科職員や病棟看護師へ

◆ 遺伝かな?と思われた時は、がんの発症・未発症にかかわらずご相談ください

遺伝カウンセリングは、遺伝子検査をお勧めすることが目的ではありません。乳がんや卵巣がんになられた方、家族に乳がんや卵巣がんの方がいて心配のある方に、専門医の見地からアドバイスをしながら、遺伝子検査を受けるか否かを相談する場です。もし陽性と出た時を考えれば、多くの不安を持たれることでしょう。ご自身のがん発症や再発だけでなく、お子様の今後なども……。遺伝性の疾患は、ご自身だけでなく血縁の方にもつながるものですから。ですが、検査で陰性と分かれば安心できますし、陽性となっても、健診での早期発見やリスク低減手術でがんの発症を防ぐこともできます。しかし、受け止め方はそれぞれで、《知る権利》と共に《知らない権利》もあると考えています。ですから、「検査を受けてください」ではなく「相談してください」なんです。来られた方には、「すぐに結論を出さずゆっくり考えて、それで受けようと思えばいつでも来てください」とお話ししています。身内の方ともご相談していただきたいと思いますし、もちろん、ご家族にご同席いただいても結構です。納得できる選択のために、是非ご相談ください。

乳腺外科 顧問 玉木 康博

《専門分野》乳腺疾患、遺伝性腫瘍

乳腺外科

「乳がん高度健診・治療センター」

高度な乳がん診療をトータルに実施

大阪府南部の乳がん診療拠点として、乳腺疾患に精通した専門性の高いメディカルスタッフが集結しチーム医療体制を整えています。「乳がん」手術件数は、近畿圏屈指の実績です。

また、看護師を中心とした「乳がん自己検診法」出張講座など、独自の啓蒙活動も行っています。



トモシンセシス(3D撮影)マンモグラフィ

3D撮影により、精度の高い撮影が可能です。希望者は、従来のマンモグラフィに追加して使用できます。

過去の画像との比較読影を徹底

過去に当センターで受診された方は、過去画像との比較を行い、経時的変化を確認しています。

高濃度乳房判定を実施

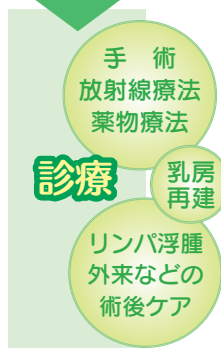
「高濃度乳房」の即時判定を行い、ご希望の方には当日にエコー検査の追加ができます。



大阪府下では2台！

最新の腹臥位式トモシンセシスマンモトーム生検装置

3D撮影で従来では難しかった病変も写出し、微細な石灰化も明瞭に確認できる最新機器です。地域の医療機関からの検査のみの依頼も受け付けています。



形成外科医の常勤により手術と同時の再建が可能

乳房再建には、人工乳房を使用する方法と自分の体の一部を用いる方法があり、乳がん手術と同時に行うことも術後期間をあげて行うこともできます。当院は全ての施設認定を取得しています。



外来化学療法センター

化学療法を安心・安全に受けていただけるよう、がん化学療法認定看護師を中心としたスタッフが、きめ細かく対応します。



乳がん看護外来

乳がんの治療に向き合う方とそのご家族の不安やお困りごとを相談できる外来です。療養生活が少しでも楽になるよう、乳がん看護認定看護師が専門知識をもってサポートします。

緩和ケア病棟

患者さま一人ひとりの思いや苦痛を受け止め、その人らしく穏やかな毎日を過ごしていただけるよう日々カンファレンスを行いながら、ご本人とご家族にとっての最善を考えサポートしていきます。

◆患者さんの選択を支持しサポートする — それが医師としての責任

遺伝子検査の保険適応が広がり、検査を受けられる方が飛躍的に増えています。術後の再発予防の薬を選択する上で遺伝子検査が必要となる方もおられ、今後も更に増えてくるでしょう。そうなれば、陽性の結果が出る方の数も必然的に増えてきます。当院では、昨年4月に乳腺と遺伝性腫瘍が専門の玉木医師が来てくださり、HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）の方への対応を含め、トータルな診療としっかりとしたフォローアップができるようになりました。遺伝性がんについても、これまで治療をしてきた当院に相談できる医師がいることが、患者さんの安心につながっていると感じています。

患者さんから「先生ならどうしますか？」とよく聞かれるのですが、「遺伝子検査」でも「治療法を選択」でも、私は医師として勧める方をお話します。その上で、どの選択をされても、必ずその選択を支持しサポートすることをお伝えしています。それが、担当医としての責任だと思っているからです。遺伝性がんは長いおつきあいになりますから、患者さんと共に歩んでいけるパートナーでありたいですね。



乳腺外科部長
乳がん高度健診・治療センター長
大城 智弥

新年あけましておめでとうございます



貝塚市病院事業管理者
片山 和宏

この数年にわたって世間を席捲しているコロナ禍は、感染予防策やワクチン接種など種々の対策により、ウィズコロナを視野に入れながら、社会活動を動かせる方向へ向かいつつあるようです。この過程では、地域の皆様にも数々のご協力をいただき、誠に感謝致します。

このコロナ禍は、人類に多大な負担をかけてきたわけですが、その中でいくつかの価値観の転換があったのではないのでしょうか。その一つは、行政と連携した自治体病院の役割・重要性です。それを踏まえ、国が勤める地域医療構想においても、主眼が自治体病院の再編・統合から、機能強化・経営強化へと変わってきています。今年も、「地域住民を支える良質な医療を提供」できる自治体病院としての機能強化・経営強化を進めていきたいと考えております。

病院機能強化の一環として、昨年10月より総合診療部を創設することが出来ました。部長は新しく赴任された富吉浩雅先生です。医療が高度化するにつれ、各分野の専門家は増えつつありますが、患者さん達の高齢化に伴い、複数疾患をもっておられる方も増えておりますし、またなんらかの症状があって病院を受診された方達の中には、受診すべき診療科がすぐにはわからない方もおられます。そういった医療ニーズに基づき、一時期多くの大学病院で総合診療部が立ち上がりましたが、順調に運営できているところは数少ないのが現状です。しかしながら、地域に密着した自治体病院としては総合診療部の意義は大きく、この部を当院で立ち上げることができたことで、より地域に貢献できると期待しております。また、他にも多くの医師が赴任され、各分野のレベルアップに貢献していただいております。

課題はたくさんありますが、本年も市民病院の発展のために努力していきたいと存じます。よろしくお願いいたします。



院長 長谷川 順一

皆様、明けましておめでとうございます。今年の干支は癸卯（みずのと・う）です。癸卯は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しています。昨年は一昨年同様、新型コロナ診療と通常診療をいかにして両立させるかに腐心させられる1年となりました。今年こそウィズコロナ・アフターコロナ元年として大きく「飛躍」「向上」する年にしたいものです。

さて今年は、5年に一度の公立病院の改革のための経営強化プランを策定することが求められています。この「持続可能な地域医療提供体制を確保するための経営強化プラン」では地域包括ケアシステムの構築が最重要課題の一つとなっています。当院は、急性期医療に加え、在宅支援等を強化することで、シームレスな医療提供体制の推進に努めてまいりました。特に地域包括ケア病棟を開設し、高齢の患者さんにも余裕を持った在宅復帰への橋渡しを行うことができるようになりました。今後も連携と後方支援の強化に重点を置き、泉州医療圏での地域包括ケアシステムの構築をさらに進めてゆく必要があります。在宅・介護医療の取り組みを継続・強化するとともに、さらなる人材育成も行う予定です。

新型コロナとの闘いは、形を変えて今後も続くものと思われます。新型コロナによるパンデミックは、災害医療だけでなく新興感染症拡大への対応も平時から考える必要があることを強く再認識させられる良い機会となりました。非常事態が起こることも、最前線に立ちながら最適な医療を提供することが我々の使命です。地域の中核となる「面倒見のいい病院」としての役割を果たしていけるよう全職員一丸となって邁進する所存です。本年も変わらぬご協力とご支援をお願い申し上げます。

■ 第84回 市立貝塚病院 市民公開講座のお知らせ

【テーマ】ひざの健康（変形性膝関節症の日常生活の工夫と運動療法）

【日時】1月25日（水） 14:00～15:00

【講師】市立貝塚病院 認定理学療法士（運動器・呼吸器）山口 拓也

【場所】市立貝塚病院 7階講義室

【費用】無料 【定員】30名（要予約）

【申込・お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865

1階総合案内でも予約受付しております。

FAX 受付：072-439-6061（お名前・連絡先・申込する講座テーマ・日程を記入のうえ送信してください）

※当日、発熱のある方はご参加いただけません。コロナウイルス感染拡大の状況によっては中止となる場合があります。



令和5年
1月25日
(水)

《手話通訳あり》
手話対応のご希望は
1月11日(水)までに
ご連絡ください。

■ 病院機能評価【3rdG: Ver2.0】の認定を受けました

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価の認定期間は5年で、第三者機関である日本医療機能評価機構によって審査されます。

当院も2022年6月23・24日に訪問審査を受け、【機能種別版評価項目 3rdG: Ver2.0】の機能種別で認定されました。2002年に初回の認定を受けてから20年、今回で5度目となります。機能評価認定は、「医療の質が高い」というだけでなく、その病院が日々努力を続けているということの証です。今後も、地域に根ざし安全で安心な医療を提供する病院として、より一層努めてまいります。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 泉州かいづか

◆日程：令和4年10月29日（土）・30日（日） ◆会場：二色の浜（市民の森）

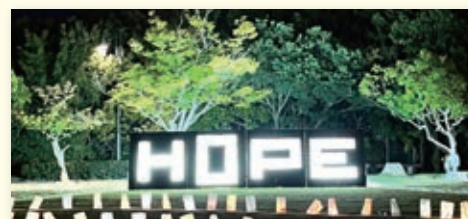
このイベントは、がん患者さんやご家族を支援し、地域全体でがんと向き合って「がん征圧」を目指すチャリティー活動です。参加者がリレーで夜通し歩き、勇気と希望を分かち合いながら、全国のリレーへとタスキをつなぎます。「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受ける当院は、毎年ボランティアで参加し、がんに関する医療講演も行っています。

新型コロナウイルス感染症の影響でリモート開催が続きましたが、今年は3年ぶりに秋風が心地よい青空のもとでの開催となり、約450名が参加しました。夜には、「HOPE（希望）」の文字とともにメッセージ入りのバッグを灯すルミナリエセレモニーも開かれました。

●がん征圧への思いを込めた医療講演「がんと遺伝子」



当院の玉木康博医師が、がん遺伝子検査の今と近い未来の治療法について解説。参加した40名の方も、熱心に聞き入っておられました。※講演内容の一部は本誌でもご紹介しています。



参加者それぞれの想いを書いた白い紙袋（ルミナリエバッグ：有料）に明かりが灯ります。

貝塚市の
医療ウィッグ購入費用助成制度

抗がん剤治療の副作用で脱毛した方対象

《お問い合わせ》
貝塚市健康子ども部
健康推進課 ☎ 072-433-7000

■ 水間鉄道のオリジナルヘッドマークに思いを込めて ～地域住民を支える病院であり続ける～

水間鉄道のオリジナルヘッドマークは、貝塚市へのふるさと納税のお礼として人気を集めています。右写真のヘッドマークは、当院顧問の今本医師がふるさと納税をし、2022年5月23日～6月1日の10日間装着されたものです。

当院の理念が「地域住民を守る良質な医療の提供」から「地域住民を支える」に変わったのは、今本医師が院長任期中の2022年1月。「公立病院として、患者だけでなく地域の医療・介護に携わる方々の支えとなる病院へ」との決意を込めた変更です。今本医師は「地域住民から信頼され、地域住民を支える病院であり続ける」との思いを込めて、貝塚市民に親しまれ続ける水間鉄道のヘッドマークを作成されたとのこと。

現在は、寄贈を受けて正面玄関入り口に掲示しています。直径約50cmのこのプレートは、職員一同にとっても医療人としての決意を表すシンボルとなっています。



医療従事者向け情報（地域連携ニュース）

■市立貝塚病院「登録医制度」導入のご案内

地域医療機関の皆さまには、日頃より当院と密な連携を図っていただき、年間7,000件から8,000件を超える紹介をいただいております。この場を借りまして御礼申し上げます。今後も、地域での機能分担を行いながら、患者様にご満足いただける良質な医療の提供に向け努力してまいります。

当院では現在、公立病院としての役割をより一層果たすべく、『開放型病院』の承認に向け準備を進めております。これにより、当院の医療リソースを有効にご活用いただき、患者様が入院された際にも、当院の担当医（主治医）とかかりつけ医が共同で診療することが可能になります。入院中の患者様にも、安心して療養生活を送っていただけたと考えております。

この準備のため、新たに「登録医制度」を設けました。ご登録いただくことで、これまでの連携に加え、「開放型病床」をご利用いただけるようになります。是非ご登録をご検討ください。

開放型病院とは

病院の施設や機能を地域医療機関の医師にも開放している病院のこと。地域医療機関である診療所の先生方と病院が連携し共同で治療にあたり、患者様に一貫・継続した医療を安心して受けていただけます。

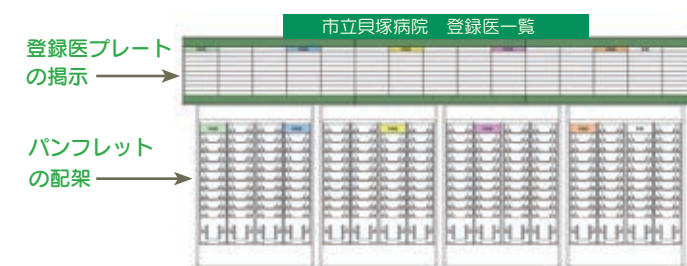
《登録による追加項目》

- ◎登録医療機関プレート、登録医療機関証、登録医カードの交付
- ◎当院内登録医ボードへの「登録医プレート」の掲示、パンフレット作成及び配架
- ◎当院ホームページへの掲載（*ご希望時）
- ◎開放型病床のご利用

【お問い合わせ】

地域医療連携室 ☎ 072-422-5865

《登録医一覧ボード》 当院1階に設置



貝塚市内の内科・歯科医療機関の皆さまには、当院より各医師会を通じて直接ご案内いたします。貝塚市外の医療機関の皆さまには、登録方法等別途ご案内いたします。